

## 特集 授業を活発にする「やりとり」の活動

# Interactionを生かした わかる授業

海部 祐希子

(兵庫県神戸市立鳥帽子中学校)

## 1. はじめに

昨年度の神戸市中学校英語研究会の研究テーマにおける「Interaction を生かした わかる授業」をもとに、生徒の英語運用能力、授業参加へのモチベーションアップを図った実践例を紹介します。最終目標を Impromptu Skit に設定し、*NEW CROWN Book 3* のテキストの題材をもとに行なった活動実践、またその積み上げを具体的に記したいと思います。

紹介する活動は文部科学省・外務省主催の平成24年度若手英語教師米国派遣制度での研修中に学んだことをヒントに、発展させたものがほとんどです。

## 2. 活動実践

最終目標に向けて、以下のような6段階のステップを設定しました。なお、活動の基礎となる英単語や英文法、英語表現の力を強化するため、WritingとReadingの帯活動を毎時間行いました。

- ① Strip Activity (1対1) 質問⇒返答+1
- ② Line Talking (1対1) 質問⇒返答+1⇒  
リアクション+新たな質問の繰り返し
- ③ Simple Skit (Pair) 暗記+小さなアレンジ
- ④ Scenario Making (Pair) key sentence を発展
- ⑤ Advice Letter (Group) 問題解決
- ⑥ Impromptu Skit (Group) 劇

## 3. 活動実践の具体例

実践例の①、②は主に会話活動として、実践しました。小さな間違いを指摘するよりも、自分の考えを表現することに重点を置き、少々の語順や人称、時制、発音のミスを気にせずに、ジェスチャーや表

情、絵を使って存分にコミュニケーションをとることを勧めました。

①の Strip Activity では、Lesson 3 の文法事項である “Have you ever ~?” を使った質問が書かれた strip (細長い紙) を持って会話をを行い、Yes, I have. / No, I haven't. だけでなく、プラスワンの情報もつけるよう促しました。また、生徒自身に質問を考えさせ、次の時間までに教師が英文と内容をチェックし、2回目の活動で用いたところ、大いに盛り上りました。

②の Line Talking は、ペアになった2人が、1分間で、与えられた質問事項から、会話を発展させていくという活動です。①と②の2つの活動を通して、生徒は自分の思いを英語で発信する楽しさや、相手の考えを聞いたり、それについて深く尋ねる経験をし、英会話に対する知的好奇心を大いに高めることができました。

③の Simple Skit は、教科書の本文に少し手を加え、ペアになって暗記、ペア同士でお披露目・評価する活動です。その際、少しでも「自分たちしさ」を引き出すために、各ペアは「大声部門」「ドラマティック部門」「コミカル部門」「発音部門」を選びます。We're Talking ①, ②, ③, ⑥で実践しました。

④の Scenario Making は We're Talking ④, ⑤にて実践しました。それぞれの Talking Point の重要フレーズを用いるようなシチュエーションを4つ用意し、4人編成のグループごとにシチュエーションを選び、シナリオを作っていく活動です。重要なフレーズを最低2回は使うという約束を設定し、オリジナルシチュエーションにもチャレンジさせました。シナリオは提出させ、優秀作品を評価・コメント付きで配布し、全員でシェアしました。生徒は

## 特集 授業を活発にする「やりとり」の活動

他のグループの作品を興味深く読んでいました。

⑤のAdvice LetterはL7 GET Part①の“What should I do?”をkey sentenceに用いました。雑誌の「お悩み相談室」をモチーフに、中学生が考えそうな悩み相談レターを6つ用意し、それを4人グループが編集チームとして返答記事を英語で作成するという活動です。悩みは、両親との問題や体形、勉強、友人、恋など彼らの日常に近いものを用いたため、生徒も気持ちを入れて解決案を考えたり、励ましの言葉を考えたりと、熱心に取り組んでいました。

最後に、最終目標の活動として、⑥Impromptu Skitを行いました。生徒を4～5人のグループに分け、1時間は準備、もう1時間を発表という形で活動しました。題材は、We're Talking⑦の“Could you ~?”を使い、こちらが与えた4種類のシチュエーション、

- ① 恋人の誕生日にケーキを焼きたいので、家庭科の先生に作り方を教えてもらうよう頼む
  - ② 旅行中に道に迷ってしまい、現地の人に道を尋ねる
  - ③ 新しい携帯電話を買ってもらうよう、親に頼む
  - ④ 恋人と待ち合わせに寝坊して遅刻しそうなため、親に車で送ってもらうよう頼む
- (下線部は教師かALTが交代で役を演じる)

に対して、生徒はある程度のシナリオを全員で考え、3～5分で発表します。ただし、生徒たちが“Could you ~?”と交渉する相手は教師かALTになるため、彼らの作ったシナリオ通りの展開になるかどうかはわかりません。

発表は、「Action!」や「Cut!」と合図を出す役(1名、英語に苦手意識を持っている生徒)、与えられた場面設定の英文を読み上げる役(1～2名)、劇に登場して演技をする役(1名～全員)で発表を行いました。この活動では、生徒の本当の英語力、表現力、コミュニケーション力が試されます。生徒は改めて英語でのコミュニケーションの難しさや楽しさを感じたり、ちょっぴり自信をつけたり、また、他のグループの劇から学ぶことも大いにあったようです。

### 4. 活動の成果

これらの活動を通して、まずは生徒の授業へのモ

チベーションが大いに向上しました。活動に参加したいがために、英語に苦手意識がある生徒も、日ごろの授業を真剣に取り組み、活動に少しでも参加できるよう、また他の発表の意味が理解できるよう、努力する姿が見られるようになりました。

また、生徒同士の学び合いも深まり、Peer CheckingやPeer Editingも盛んに行われるようになりました。教室のあらゆる場所でミニティーチャーがたくさん生まれ、教え合い、学び合うことで、彼らも自信をつけることができました。教科書の付録ページを使って、自分の言いたいことを調べたり、教師へ質問することも増え、“What do you say ~ in English?”が教室中でたくさん聞こえてくるようになりました。key sentenceがどのような場面で実際に使用されるのかがよくわかったという声も、アンケートに多く記されました。

他にも、別のグループの発表を見たり、シナリオを読むことで、その後の活動の中で、自分たちのオリジナリティーを思考に盛り込む生徒が増えました。生徒のクリエイティビティに感動させられることもありました。

初めは、生徒の発想を自由に表現させたいという思いから、小さなミスや発音に関して、細かい指摘を避けていましたが、生徒の発話に深く耳を傾け、間違いを直し始めると、生徒は嫌がるどころか、うれしそうな反応を示したので、積極的にミスの指摘や修正もしてあげられるようになりました。

### 5. おわりに

これらの活動をするにあたって、日ごろからグループ活動を考えた配慮ある座席という背景が大いに役立ちました。英語の得意・不得意を超えて、学び合いの環境を作ることに協力してくださった各学級担任の先生方、またALTを週2回も配置してくださいました環境に、とても感謝しています。

英語教師は、英語を通して世界・日本の文化やコミュニケーションを教えます。自分を発信し、他者の考えに耳を傾け、新しいことを発見する楽しみを伝えることができます。日々の授業の中で、生徒が英語を使いたくなるような演出や仕掛けを、ぜひお試しください。